



総会特集号

発行 日本アーキテクチャーレンダラーズ協会
 編集 広報委員会
 事務局 〒106 東京都港区六本木7-15-9
 井上ビル
 TEL 03-478-0151
 VOL 1 通巻4号

1980年(昭和55年)10月30日発行(定価¥100)

第1回総会開催さる

総会後のレセプション全メンバー



協会発展に努力を

会長 光藤俊夫

本日は協会の設立お目出とうございます。この協会がこういう形で発足の前に私と同じ職場におります佐々木君並びに日建の森さんからいろいろ話は聞いておりました。又その節には是非協力して欲しいとも聞いておりました。もうすでにご案内の通り一国一城の主と申しますか大変個性がそれぞれあり中々一つの集りになりにくく人達が集ってこの様な

協会をつくると言われ、大変興味を覚えておりました。また、こういう協会の設立が遅きに失したのではないか。今迄何故この様な協会が出来なかつたのかつねづね関心を持っておりましたが会長という役でこの協会を引受けたとは夢にも思ってもみませんでした。ある日福永理事長と事務局長が私の所にこられその話を伺いましたびっくり仰天致しました。

他にも沢山この協会に適した方々がいるのに私が引受けた責任を果せるかどうかまずそれが心配で再三再四おことわり申上げたのですが理事会の強い要望という事ですので諸先輩をさしあいでお引受致す事になりました。こういう事態に至りました以上は協会の発展維持に又目的の主旨にそって努力邁進致す所存ですので何卒よろしく御願い申上げます。

<AR協会設立趣意書>

パースは元来、建築設計図書の一枚にすぎないものである。それは又施主、施工のプレゼンテーションとして使われ、営業用の一つの手段としても重要な存在であった。しかしながらこれらパースとしての作品は設計者と施主とのプレゼンテーションのみに用いられることが多く、あまり多くの人の目に触れないまま、どこかへ消えてしまった、というのが現状である。

数年前より某出版社が多くのレンダラーを探し、足を棒のようにして集めたパース集が出版

された。以後、何回か同様の本が出版されている、我々はこれらの本を見ることにより初めて多くの同人がいる事に気付き、また新しいテクニック、新人の名前、更に昔の仲間等、その消息を知ることができた。かつてのパースは建築家自身で描いたものである。名をあげてみると建築家として、伊藤喜三郎氏、吉村順三氏、大熊喜英氏、清水建設の黄金時代を築いた高須賀晋氏、同竹中工務店の光藤俊夫氏他、まだ沢山いる。ここに上げたハイオニア的な方々の耕した土で、やっと我々は花を咲かせようとしているのである。若いレンダラーの中にはこうし

た、かつての建築家自身が描いた作品を目にするチャンスはすでに無いといってよい。これからこの道を目指す多くの人達の為にも、作品を残していくことが、当協会の使命であると思うのである。我々自身も傑作を持ち寄り、定期的にパースの年鑑的なものを作り、そしてすばらしい仲間が集まりお互いの「人物と作品」を確認し合うことに始まって、技術の紹介、話題の建築物の見学会、国際親善等へと発展し、ますます社会的地位向上へとターゲットをかざした職業として発進したいものである。

(福永文昭)

協会の発展を期待する

理事長挨拶



永遠のロマンを

本日は、日本アーキテクチャルレンダーズ協会の第一回総会です。私は、はからずも理事長という大役をおおせつかり、自信はございませんが、任期まで懸命に職務を全うする所存でございます。

当協会の目的の一つに会員のベースの傑作を年鑑的なものに残してゆこうという計画があり、このことは、我々が諸先輩方の描かれたベースの作品を見て学ぼうにも、何も残っていないという事実があるからです。ベースは設計者から施主へのプレゼンテーションだけで終ってしまい印刷物にならず、これは貴重な文化が失われていると同じといえます。完成した建物には実物の写真があり、ベースは必要ありませんが、建築家の本音は案外初期のベースにあるものなのです。又この本には、多くの建築家にも会友になっていただき、すばらしいベースをのせて、我々を叱咤激励していただきたいものです。

「ベースを描けない建築家は、夢の喰えない猿のやうなもの」とは、光藤氏の言葉で、云い得て妙であります、逆に考えて見ますと、我々は、夢だけしか食べることの出来ない猿の集りとも云える訳です。しかし夢が絵に描けるなどというレンダラーは、何と幸せな職業であろうかと思います。古い映画ですが「摩天楼」というのがありました。そのモデルになったと云われるライトのマイルタワーのベース、あの1600メートルのスカイクライバーは、まだ建つ気配はありませんが、この偉大な夢が実現されるまで、そのベースは生き続けるのです。建築家とは実にうらやましい職業です。でもこのように建築家に夢がある限り、我々レンダラーは育ってゆくのです。

(フナガレンダリング主宰)
福永 文昭



来賓祝辞

建築の文化に貢献

本日は日本 A & R 協会設立総会に際し大変うれしい事だと思い馳せ参じた次第でございます。というのは今から35年前終戦に程近い時期にアメリカに留学を致しニューヨークのマルセル・ブロイヤーの元で働いておりました頃レンダラーという言葉あまり聞いた事のない様な職業の人達といろいろなコンタクトがありました。その折我々日本人は大抵の人が絵はうまいし浮世絵等の伝統で線はきれいで手先も器用な事からお前やってみろと言われ日本での教育等も足りず非常に弱りました。しかしそういう人達が来るときっとやつてくれこれがレンダラーと思いつつ早いもので数年が過ぎてしまいました。今度このような協会が出来るに当り日本もようやくここ迄来たかなという感を深くしました。というのは今迄あまりにも空間構成や美的表現がないがしろにされ構造材料、法規経済性等が主に重要視され加えて地震に壊れず火事にならない事等のみを追求するあまり空間をどう表現したらよいか建築家まかせになってしまい衣食住の住のみが世界に誇れない事になってしまい更に建築家がそれらをないがしろにしてきました。

加えて現在の住いの環境、町並、都市空間が衣食に比較して落ちていましたがここ数年の間に人間らしい生活、知的、美的なものや我々の祖先が持っていたものを近代化におきかえていくように建築家やオーナーがめざめてきました。この様な折に A & R 協会が発足した事はまさに機に適した事だと思います。これを生かし建築家とレンダラーがそれら社会的なものを助けまたそして役立なければならぬからなのです。この機会を生かし建築家協会と A & R 協会が共に手をたずさえて仲よく力を結集し日本の建築文化住いの文化に貢献しなければならない。更にここに

(日本建築家協会会長
武藏工大教授
建築家
芦原 義信)



今後もよい仕事を

本日は第一回の A & R 協会設立総会おめでとうございます。実は私自身がごく最近建築家協会に入れていたばかりです。ともうしますのは何んとなく一匹狼的になってしまい折角いい協会があり乍らなまけてしまい最近ようやく皆さんの為に及ばず乍ら手伝いをしたいと思ったからです。

皆様方は建築家と違いましてスペシャリストなので食べてていくのに困らない。その人達がこのような協会をつくるという事は非常にいろいろな意味で有意義な事だと思います。レンダリングに関して今更のべる事はありませんが申す迄もなく私達建築家はレンダラーの方々にクライアントを説得する他にイメージや二次元三次元の空間表現を明確にする事等でレンダラーの皆様にお世話になっております。但し日本では建築を美的なものにとらえる風習が欧米にくらべてなかった事や建築を絵にする機会がない為にそれらがなおざりにされすぎておりました。又建築家も建築にこだわりすぎる為や絵を示さなくて仕事が成立つという半面がある。しかしあまりデザインのうまくない建築がレンダラーの手にかかるとたちまちいい建築になってしまい非常に危険な一面があります。それは建築家がデザインやその他いい建築にする為の事に対して妥協してしまうからです。元来いいレンダリングとはよいデザインの基本の上にしか成立たない筈だしました、デザインの素晴らしい建築にはよいレンダリングがついて来る筈です。皆様方がいい仕事をしたいと望むと同時に建築家も皆様方に対して責任があります。それらを一般社会や建築文化に反映させたいと考えております。

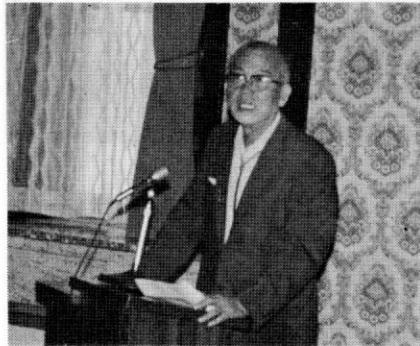
(建築家
山下 和正)



建築家の心をもって

本日は A & R 協会の設立おめでとうございます。本来ベースは建築家が描くべき事ですが昔と違いまして建築家でもベースのうまい人が少なくなった事や建築の分野が細分化されベースもその一つの分野になってしまいデザインポリシーが中々つらぬけなくなってしまった。皆さんは建築を対象にして仕事をしているのだから建築家の心やデザインは何処にあるか。又一番表現したい所は何かをつかんで欲しい。ベースを職業として商業ベースをやる人もこの建築家に何を望み何を表現して欲しいか、時によつてはデザインに對してこうした方がよいのではないかといった様なデザインセンスを身につけて欲しい。現在ベースの世界がグラフィックやその他のデザイン関係からの出身の方が 3/4 をしめる。今日この頃ですがレンダラーはその建築家になりきったつもりでベースを描いて欲しいし建築のデザインはどこにあるかを把握する事が今後のポイントになる事でしょう。

(建築家
高須賀 晋)

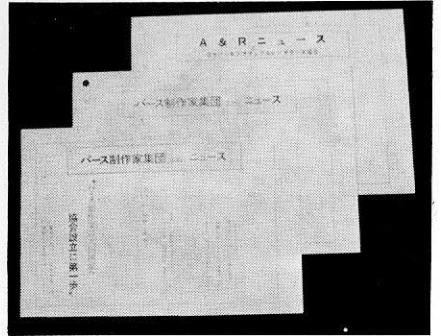


原点に立ちかえれ

この度、顧問を仰せ付かり、大変名誉な事と認識を新たにして居ります。さて協会設立の運びとなりまして心からお喜び申し上げます。今日の業界の発展は偉大な先人がこの道に、情熱を傾けられた歴史を忘れる事は出来ません。この機会をお借りして竹中工務店の光藤さん、元清水建設の高須賀さんの御両人に、改めて敬意を表したいと思います。さて、最近発表されている作品等を見ると、私はその中に媚を感じてならないのです。ベース家は、建築家でなければ描けないという原点に戻り、ベース本来の使命感を皆が今一度、考える機会ではないでしょうか。協会主催の原画展等は、その様な立場で考える時、その個性とを考えを發揮出来る唯一の場であり、また私が長年温めた夢でもあります。若い中堅の建築家が、建築家協会に入れたと、その喜びを身体で表現し乍ら話しをされた事がありますが、この協会もそんな存在になる事を念じて居ります。どうか会員相互間の温かい思いやりと励まして、会の発展される事を切望致します。

(元ドーム代表取締役)
成瀬 嶽雄

委員会報告



《A & R 総会までの経過》

- '80. 4/12 (於、健保会館)
 - ・建築パース製作作家の協会設立に向けて、10名の作家と世話役が参考し、意見を交換した。
- 5/10 (健保会館)
 - ・協会の名称決定に至らず
 - ・入会基準の討議
 - ・設立準備委員選出
 - ・建築透視図技能検定試験について、今後検討を進める。
- 5/20準備委員会（グラフィック社）
 - ・協会名称内定
 - ・7/6 設立準備総会を予定
 - ・会費内定
- 5/30準備委員会（グラフィック社）
 - ・会則案煮つまる。
 - ・設立準備総会当日の委細内容の検討
- 6/7 設立準備総会（九段会館）
 - ・出席者44名
 - ・会則討議……会費は理事会で更に検討し、第一回総会に図ることになった。
 - ・理事任命
 - ・全会員は、3委員会のいずれかに所属する。
 - ・各委員会毎に分担業務の理解を深めた。
- 6/13理事会（グランドパレス）
 - ・理事長福永氏、監事深谷、森氏を選出。
 - ・第一回総会、於九段会館に決定
 - ・会費修正案決定
 - ・会長を光藤氏にお願いすることに決定
- 6/20教育開発委員会（ヒューマンファクター）
 - ・図法、用語のアンケートをとることを検討その他
- 6/28企画委員会（九段会館）
 - ・年鑑発行、その他イベントを企画
- 7/9公報委員会（シルバー）
 - ・会報発行と、総会に対する業務分担
- 7/11、7/16理事会
 - ・第一回総会に対する委細内容の検討
 - ・名誉会員、顧問についての討議
 - ・オブザー出席を検討
- 7/19第1回総会

以上



教育開発委員会

教育開発委員会では A & R 協会会員として、又後進を育ててゆく為にも、まず我々が原点に戻り正確な透視図法の確認、的確な指導、教育の出来る体勢をとっておくべきと考え、また図法上の用語、呼び方を調査、研究すべく会員の皆様からアンケートをつくり、後日何らかの形で、会員の皆様方にフィードバックを更には各種教育機関等への P.R.、啓蒙に努めてゆきたく活動の第一段階として計画致しております。

企画委員会

企画委の現況については、大野委員長、或は金沢氏の明解な報告を掲載する予定でしたが、大野氏の多忙、金沢氏の海外旅行が重なり、今回は広報委にて概況を御知らせする程度でまとめました。

かねてより懸案の年鑑の発刊が重要な課題として存在する、その内容は各会員の作品が主な役割を演じることになると思われます。10月締切搬入、来春3月発行を計画中。

その他、イベント開催（会員の原画展）、海外レンダラーの招待等も検討中。



広報委員会

広報誌発行については、7月19日の設立総会以前より、或る程度の構想は、理事会他、各委員会で提起され、素案として季刊、月刊の選択を迫られていた。広報委としては、協会設立後早急に A & R の顔でもある 4号誌発行の具体化に積極的に取組み、骨格は季刊（A4）を決め、その間に速報の必要性の高い案件発生に応じレポートのような形ではさみ、A & R の流れを伝えて行く方針をきめた。体裁については、ロゴタイプ等、関連デザインも漸時統一され、次号からは洗練された姿で皆様にお目見えすることでしょう。

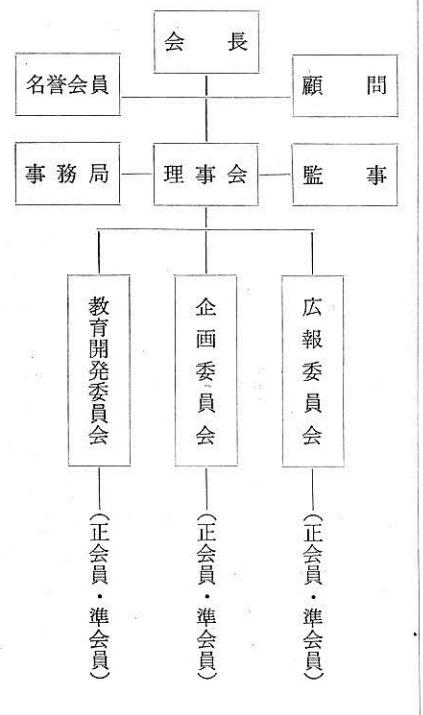


理事会のお知らせ

理事会は、毎月第2金曜日に行なうことに決定しています。役割は総会及び協会の運営全般に亘り、各委員会から提出された懸案事項の検討、各委員会活動方針の承認等が主となっています。

役員は教育開発から、門脇信夫、南几代美、森芳信。公報から、佐々木清、中野俊章、深谷彪、刈谷拓爾（京都）、企画から大野昉、金沢活、福永文昭、辻本達広（大阪）の各氏、尚、関西方面の役員の方は、毎月行われる理事会に出席することは困難なため、議事録を送り、電話、及び郵便等でコンセンサスをとり、コミュニケーションを図って行くことにします。

協会組織図



オブザーバー名

（総会時に出席して頂いたメンバー）
(正式の住所録を、後日発行の予定です)

秋山奉由、奥村一也、海法一夫、川嶋幸江、木村純一、倉田ふじ江、斎藤謙三、菅田幸一、田辺めぐみ、竹内俊秀、田村均、塚田、戸田、中門静子、永井佐智子、西島勝、西川嘉文、峯田昭雄、宮崎岳彦、村井謙介、樋口治登、福元宏幸、福田利雄、安川昭二

<会員名簿> '80. 7. 19現在

(○印理事 △印監事 アイウエオ順)

アベ建築パース事務所
世田谷区坂坂

静岡県小笠郡大東町入山瀬

（有）桁パース

渋谷区道玄坂

オズアトリエ

港区南青山

アトリエボノム

渋谷区千駄ヶ谷

落合レンダリング

渋谷区千駄ヶ谷

（有）ヒューマン・ファクター

港区南青山

（株）P.D.K

渋谷区代々木

（株）レンダリング R I Y A

大阪市東区島町

（株）カワドハウス

港区西麻布

ユニ・アトリエ

渋谷区代々木

Zwo パースアトリエ

杉並区上井草

ケイアトリエ

豊島区東池袋

アトリエ

目黒区平町

横浜市緑区美しが丘

（株）ハコスタジオ

港区南青山

サツマエパースルーム

渋谷区東

（株）竹中工務店

中央区銀座

調布市仙川町

中央区銀座

種橋建築設計事務所

台東区台東

海洋開発デザイン研究所

渋谷区富ヶ谷

清水建設（株）

中央区京橋

（株）辻本デザイン事務所

大阪市南区大宝寺町中の町

清水建設（株）

中央区京橋

山沢デザインオフィス

渋谷区千駄ヶ谷

（株）フクナガレンダリング

千代田区飯田橋

（有）アトリエ・フクシマ

千代田区二番町

鎌倉市材木座

（株）福田デザイン

渋谷区千駄ヶ谷

フルサワパーススタジオ

川崎市高津区久地

（有）松鷹一海デザイン設計事務所

千代田区二番町

（株）アールエム

豊島区高田

ドーンデザイン研究所

渋谷区神南

（株）フクナガレーディング

千代田区飯田橋

（株）日建設計

文京区後楽

（株）熊谷組

新宿区津久戸町

山沢デザインオフィス

渋谷区千駄ヶ谷

山城デザインスタジオ

渋谷区千駄ヶ谷

港区南青山

ヤマデザインオフィス

渋谷区渋谷

林檎舎（（アップルカンパニー）

横浜市緑区鴨居町

デザインセンター・キャップ

名古屋市中区新栄

トライマングル

世田谷区代沢

アド・レンダリング

港区南青山

（以上45名）

インフォメーション

年鑑発行

会則にのっとり、協会監修の作品年鑑は、来年4月をメドに出版社などとの折衝に入っているが、会員の作品募集は、本年末までに行なわれる予定。できるだけ良いものにしていとの意向で、作品は原則的に原画で出品するのが望ましい。カラー印刷の場合、ボジ原稿と、原画でダイレクトで製版したのでは、出来上りがはっきり違うからである。

技能検定について

準備総会、或は設立総会で技能検定試験に対するA&Rの姿勢について問題が提起されました。これについての解決策は未だ結論が出ず、尚相当の時間が必要だと思いますが、取り敢えず技能検定試験のあらましを紹介しておきます。

先づ意義として、技能を一定の基準によって検定し、これを公証する技能の国家検定制度である事。目的は技能者の習得意欲を増進させ、その成果に対する社会一般の評価を高め、技能と地位の向上を図り、ひいては国の産業発展に寄与するものであるとされています。

この制度は、旧職業訓練法（昭33、法律第133号）により実施され現在に至っているが、その間、種々の修正、統合を経て、今では102職種の多岐に及んでいます。

建築透視図製作は、昭和52年認定され、1級、2級の区分があり、本年は第4回。毎年9月中旬（公示）、10月中旬（申請受付）、翌年1月下旬（実技）、2月中旬（学科）、合格発表は3月下旬とおおむね決められています。

この検定試験は労働大臣が行うことになっており、実施を都道府県知事に、試験問題の作成を中央職業能力開発協会に行わせています。また、受験申請の受付、試験実施の業務は都道府県職業能力開発協会が行っています。

合格者は技能士と称すことができ、1級は労働大臣名、2級は都道府県知事名の証書が交付されます。又合格者が誇りを持ち、同時に社会が正しく評価し尊重する風潮を築くため、技能士章も交付しています。

企画展開催について

年鑑発行に並行して、原画展を相乗効果をねらって開催する。一応、画材店または新宿のデパートなどで開催する予定である。これらの作品募集など詳細に関しては、目下検討中である。追って会員諸氏に通知の予定です。

アンケートの協力を

委員会報告でお知らせ致しました通り、当教育開発委員会において会員の皆様にアンケート調査の御協力を願いすることとなりました。

すでに日常の業務に駆使されている透視図法及びその簡略法、さらには我流図法、また図法上の用語、呼び方から真の透視図、用語等を確認すべきではないでしょうか。

皆様、御多忙中誠に恐縮ではございますが、郵送致しますアンケートの返信を10月30日迄に投函下さい様、御協力お願い致します。

協会マーク、ロゴ進行中

デザインポリシーの確立の端的な表現としてロゴタイプ、ステーショナリー等は、教育開発委員門脇氏が鋭意構想中で、やがて頗る爽快とデビューすることでしょう。本4号誌は門脇氏がデザインしたものです。

次号はアッと驚く体裁で皆様に御目見えすることでしょう。乞御期待！

見学会検討中

私たちが日頃描いているレンダリングの建築物を外観等は完成後に見ることが出来ても、貴賓室であるとか、役員室のように建物の引渡後では見学の出来ない特別室のような部分がかなり多い。そのような部分が見学可能なのは、引渡直前に限られる。そこで、私たちはその機会を利用した見学会を開催するよう協会の組織を通じて各界に働きかけ早期に実現を図るべく、検討中である。

関西だより

蝉の鳴き声も心なしか、義理堅く聞こえる今夏でした。東京の皆様もその後元気に御活躍のこととお察し致しております。

発足総会に参加して、建築界に占めるレンダリングの位置を再確認した思いです。

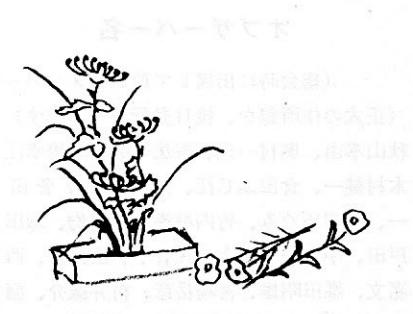
芦原先生を初め山下、高須賀両氏の優れた建築家の方々がレンダラーズ協会に深い理解と連帯の心をお持ち下さっている事を力強く感じるとともに、協会が会長、理事長に人を得て確かに足どりで進出したことに意を強くし、心を熱くして関西に帰りました。

総会で関西支部を確立するように依頼され、理事の辻本氏にお会いして、これから関西支部の在り方を話し合いました。互に20年近くこの職業に就き、名も作品も知っているのに初対面のあいさつを交わしたこと改めて横の繋りのなさと関西支部の取り組みの立後れを痛感した次第です。

さて、関西ではどのようにして行けば良いのだろうと話し合った結果、関西支部の在り方は協会の規約に基きつつも関西の特色を生かした運営が必要だということになり、取りあえず互に連絡の取れるレンダラーに連絡を取り9月3日に辻本氏のオフィスで関西支部の準備会を開き、そこで話し合っていくことになりました。現在10名程集まる予定です。

3日の会合の結果は、又報告させていただきます。

あくまでA&Rの関西支部ということですので事務局、理事会と連絡を取り合ってしっかり結び合って行きたいと思います。スーパーな関西ですが、お力添えをよろしくお願ひ致します。（刈谷拓爾）



海外から

ミニコミ

▲旧間に属するが、当協会理事の金沢浩氏が7月28日の日本経済新聞の文化欄に『完成予想図も楽じゃない』というタイトルでレンダラーの生活ぶりを巧みなユーモアを交えながら語っている。専門紙誌に執筆される方は多いが、一般経済紙にこのような形で、われわれの仕事振りが紹介されることは珍しい。一般的認識と理解が深まることをぞみた。

第一回総会が開かれた翌日、安氏から協会宛に以下のような祝電が届いた。

HEARTY CONGRATULATIONS
FOR ESTABLISHMENT OF THE
JARA GOOD LUCK TO YOU

AHN YONG SIK

ミニ情報

○かねてから望まれていたイラストレーター用ドライバーの試作品が完成した。

ヘヤードライバーにZライトのアームを応用したようなもので、テーブルの端に固定して作業しながらドライバーが使えるというものの、ドライバーの部分だけ取りはずし可能。いづみやが開発したもので、まもなく発売予定。価格は1万3千円ぐらい。

○通称MIC（ミクロチェックの会）

毎月第2土曜日（PM2:00～PM4:00）開催

'80-9/13日（土）講師 佐々木 清担当

<テーマ>

{・エスキースとプレゼンテーションについて
・ARについて
(場所) 新宿御苑教室

総合建築設計センター内

TEL (03)350-0034

▽過去、AR関係者として中野理事（清水建設）がいる。その他建築家（竹山実、東孝光）陶芸家、画家、都市計画プランナー、アニメ、グラフィック、ジャーナリスト（新建築石堂政治評論）、外国情報、コンピューター、造園、心理学（上智大）等、多彩な顔ぶれ及び各種ジャンル別に講師を依頼して第一線プロのお話しを聞く会がミクロチェックの会の総てである。（年会費（連絡費込）¥3,000）

事務局

またたく間に秋。もっとも今年の夏は少しも夏らしくなかったので、秋との区切りがもう一つ物足りない感じもしないではありません。総会後、山積している諸問題点への事務上の処理が、必ずしも順調ではないのは、申し訳ない限りです。ただ少しずつ会員諸兄からの提言や、運営上の助言を頂くことが増えていることはありがたいことと思っております。書類その他の会員への送付が開始されます。諸兄のご協力を。（事務局 小西）

寄稿のお願い

バースを描いては、皆超一流。文章は二流でも結構！ それなりに。否、一芸にひいでた者はと言っているからには或いは味のある名文も期待できるような気もします。

「会報」が、ただの紙切れで終らない為にも、会員全てに参画していただいて、紙面作りをしていきたいものです。題材自由、400字詰原稿用紙1～2枚程度、事務局寄稿をお願いします。（広報委員会では『人物紹介』北から南からetc. も検討中です）

編集室

▽今年は異状気象の変化が大きく、「冷夏」なるものを明治以来の出来事であるとか連日新聞が取りあげ紙面をにぎわしたものでした。やはり夏は夏らしくがいいようです。出遅れたセミが激しく鳴いたかと思うと、いつの間にか秋の虫の音が夜をいっそう深くしていく今日此頃です。一筆広報ベースより御挨拶を。

▽日本の代表的レンダラーの集団が世に問う『協会』の発足が「'80.7.19」を記念に誕生しました。全国組織として、今後山積する諸問題を前向きに取り組むばかりでなく会員相互間の親睦、発展をねらいとして、組織は鋭意努力奮闘中というところであります。

▽総会特集号ということで各先生方のご挨拶でのお言葉、我々協会員一同、改めて感謝致しております。玉稿をお守りとして、協会員一人一人が『協会の為に何ができるか』をもう一度認識したいものと思うわけです。最後にこの協会発展の為、皆さん自身の積極的な御意見・投稿お待ちします。